

# としょかんぽう

## No.28

東北福祉大学図書館報  
Tohoku Fukushi University Library News

TFUL News  
2018 Dec

TFU\*library

### ◇ Table of Contents ◇

- |   |                                                              |     |
|---|--------------------------------------------------------------|-----|
| ❖ | ブックレビュー<br>『マンガでわかる犬の気持ち』<br>図書館 課長 中塚 晶                     | 1-2 |
| ❖ | 知ってる? - Eリソース編 -<br>図書館の「E」資料<br>～ Eリソース利用のススメ ～             | 3   |
| ❖ | わたしの本棚<br>植物の“生きる術と生きる場所”<br>学生生活支援センター<br>ボランティア支援課 課長 鷗橋 徹 | 4   |
| ❖ | 図書館エトセトラ - 公共図書館編 -<br>地域の図書館ではたらくこと<br>石巻市図書館 主事 斉藤 麻理奈     | 5   |
| ❖ | 国際アンデルセン賞<br>児童文学と豊かな日常を                                     | 6   |
| □ | 図書館からのお知らせ<br>編集後記                                           | 7   |

## ブック レビュー

### — 『マンガでわかる 犬のきもち』 —

図書館 課長 中塚 晶

今、我が家では三代目の相棒（ミニチュア・ダックスフンド・10歳）と様々な日常を過ごしている中で、いま吠えたのは「おなかですいたよ！」だとか、「ネ～、もっと遊んでよ！」と言っているのだろうなと勝手に解釈しているが、たまにじっと私の目を見上げて何かを訴えていることもある。そんな時は、「君は何がしたいの？、何が欲しいの？」と聞いてはみるが何も答えてはくれない。

先日、図書館のベストセラーコーナーの前で足が止まった。この本のタイトルが目に入り、妙に手を伸ばしたくなった。やはり日常的に相棒と「もっと分かり合えたらな」と感じていたからであろう。表紙を開いてみると、『犬の心理について科学的に解説するものである』とあり、なおのこと興味が湧いてきて中を覗くと、『まだまだ！』という題で、家族でドッグランに遊びに行き、いっぱい遊んで帰ろうとして相棒に「そろそろ帰るぞー」と声をかけると、相棒は聞こえているはずなのに、その声を無視して遊び続けている。解説によると遊びたいけどリーダーに呼ばれている、けれどもっと遊びたいという葛藤状態になっていて、出した結論は、「聞こえなかったフリをしよう」だそうである。実に面白い。

読み続けているうちに以前、『犬の十戒』を読んで涙したことを思い出した。その中にこのような言葉があった。



私が「貴方が私に望んでいること」を理解できるようになるまで時間を与えてくださ

私を信頼して下さい... それだけで私は幸せなのです。

時には私に話しかけて下さい たとえ貴方の言葉を理解できなくても、私に話しかけている貴方の声で理解しています。

最期の旅立ちの時には、そばにいて私を見送って下さい。「見ているのが辛いから」とか「私の居ないところで逝かせてあげて」なんて言わないで欲しいのです。

貴方が側にいてくれるだけで、私にはどんなことでも安らかに受け入れられます。

そして..... どうか忘れないで下さい。私が貴方を愛していることを。

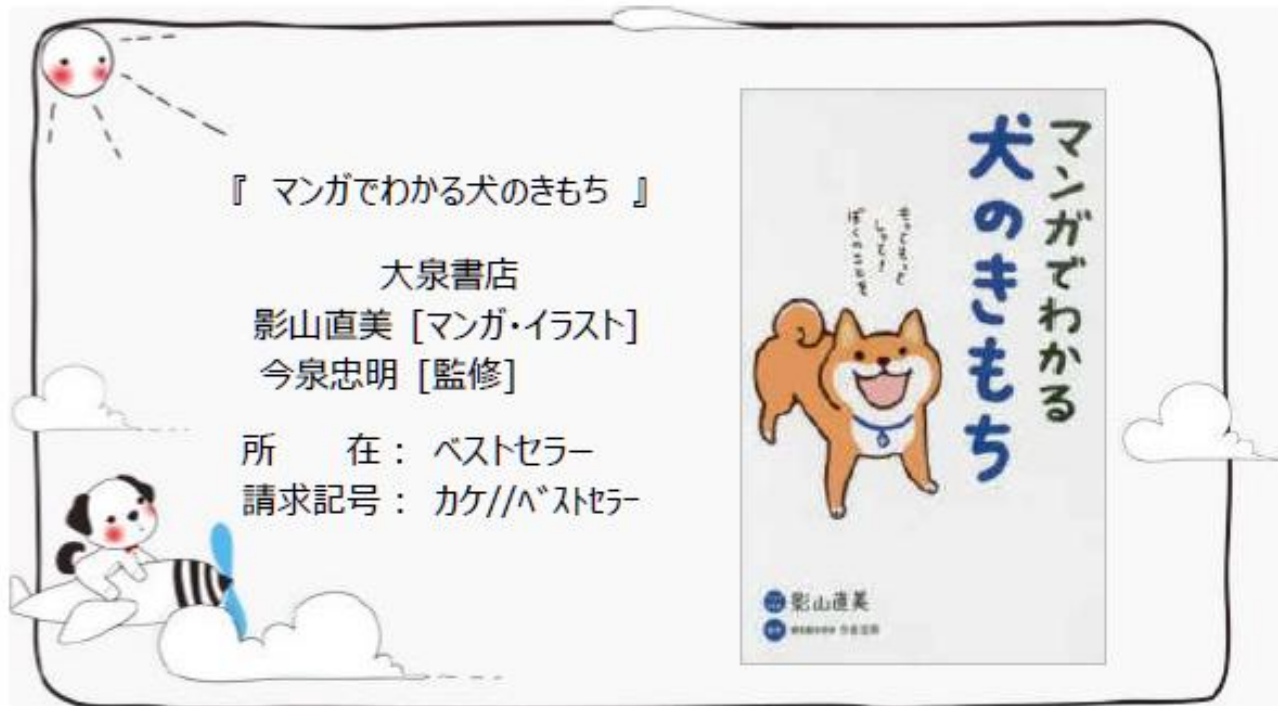
すべては人間の思い込みなのかもしれないが、やはり相棒のきもちを理解しようとすることからすべてが始まるように思える。

「犬のきもち」を解説したものを今回紹介したが、是非この本を手に取り、我々が生活する社会に置き換えて、本来のコミュニケーションとは？と考えながら一読していただければ幸いである。

『マンガでわかる犬のきもち』

大泉書店  
影山直美 [マンガ・イラスト]  
今泉忠明 [監修]

所 在：ベストセラー  
請求記号：カケ//ベストセラー





知ってる？

-Eリソース編-

## ー 図書館の「E」資料

～ Eリソース利用のススメ～

E-mail に E-Learning、巷に溢れている「E」の数々…。もはや説明するまでもありませんが、「E」とは Electronic の略。コンピュータやインターネットなどにより、電子化されたもの

を指します。この「E」、今や図書館にも欠かせない資料の一つです。その名は「E リソース」、電子ジャーナルや電子ブック、データベースや機関リポジトリなど電子化された資料の総称です。電子と聞くと敬遠されがちですが、使い方さえ覚えればとても便利な資料なのです。例えばこんな使い方が出来ます。

Q.1 「自分の生まれた日のニュースが知りたい」

A.1

【新聞記事データベース】が使えます。日付で検索すると記事一覧が表示され、新聞に掲載された本文を読むことが出来ます。『聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞）』や『河北新報データベース』といった複数の新聞記事のデータベースを揃えているので、それぞれ記事を読み比べてみると新しい発見があるかもしれませんよ。



Q.2 「ゼミの先生の論文を読みたい」

A.2

【東北福祉大学機関リポジトリ】で検索してみてください。リポジトリでは『東北福祉大学研究紀要』に収録された学術論文を中心に本学で発行された論文の一部（※注）を公開しています。ヒットした論文はすぐに読めて印刷も可能なので学術情報の収集におススメです。



今回紹介した以外にも、図書館では様々な分野の E リソースを契約しています。図書館に足を運ばなくても学内の無線 LAN が使える場所ならどこからでも使えて、欲しい時に最新の情報がスピーディーに手に入るという「良い」こと尽くしの「E」資料。図書館ホームページの INDEX「探す・調べる」から利用出来ますので、百聞は一見にしかず、是非使ってみてくださいね。

（※注：閲覧可能な収録誌や収録論文、収録巻号（年）については『東北福祉大学機関リポジトリ』インデックスリスト及びインデックスツリーをご確認下さい。）（雑誌係：齊藤 由理香）

## － 植物の“生きる術と生きる場所” －

### わたしの 本棚

「強さとは何か？」冒頭でいきなり著者が問いかけてきます。食物連鎖の底辺にいる植物は、動かないし目も耳もない、手足もなければ考えたり話をするすることもできません。そして虫や草食動物に食べられ放題だけれど、本当に弱い存在なのでしょうかと続きます。植物は光と水、二酸化炭素を使って、生きるためのエネルギーを自分で生み出すことができます。動物のように餌を求めてうろうろ動き回る必要がないのです、だから動きません。しかし一旦根を張ると、そこがどんな環境であれもう移動することはできないので、たくさんの種子が広範囲に届くよう、虫や鳥や動物に食べられたりすることで拡散し、より多くの子孫を残すという戦略を生みだしました。

また、反対に食べられないように毒を持ったものやトゲをまとったもの、葉に珣素（ガラス質）を含むようになったもの（イネ科）など、体の構造を単純化し、どのようにでも枝や根を伸ばしていける仕組みを獲得するなど様々に進化してきました。

そして、高く成長して光を独占する“大木”<sup>たいぼく</sup>に対し、争うことなく生きる雑木や雑草、実を成す時期を巧妙にずらす花など、戦わず場合によっては逃げるという戦略をとる植物たち。砂漠に生きるサボテンは、猛烈な暑さで水分が奪われないよう葉をトゲにして蒸発を防ぎ、

ハエトリソウは土中に足りない窒素を虫から摂取するなど、過酷な場所で生きる植物は、その場所でナンバー1の生きる術を身に付けていると紹介しています。

著者は、「強さには様々な強さがあり、今を生きる存在に弱い者はいない。私たち人間も、戦わずに時には逃げても構わない、その場所でナンバー1の術を見つければ、楽しく生きていけるのではないのでしょうか」と締めくくっています。

（学生生活支援センター  
ボランティア支援課 課長 鶉橋 徹）

### 『植物はなぜ動かないのか 弱くて強い植物のはなし』



筑摩書房  
稲垣栄洋 著

ちくまプリマー新書  
252

所 在： 学生閲覧図書  
請求記号： 471/イナ/学閱

図書館  
イトセトラ  
-公共図書館編-

- 地域の図書館ではたらくこと -

大学を卒業して石巻市図書館で司書として働き始めて4年目となります。最初の2年間は嘱託司書、3年目からは市の職員となりました。現在は地元の仙台を離れ、石巻に住んでいます。

石巻市図書館は県内では宮城県図書館に次いで2番目に歴史ある図書館です。和漢古書や古新聞、古い絵本も多数所蔵していることが特徴です。



仕事内容としてはカウンター業務等の基本的な業務のほか、利用者の登録申請書のチェックや、点訳の原稿作成を行っています。私は障がい者資料、一般図書、郷土・参考資料を主に担当していますが、カウンターやおはなし会では幅広い年齢の利用者と、資料に触れ合う機会があります。資料収集をする際はレファレンスの記録や、石巻に関する資料が出版されていないか催し物にもアンテナを張ります。収集してすぐに利用がない資料でも1、2年経ってレファレンスで使用することがあり、ホットした気持ちになります。

最初の頃に驚いたのは、書誌を作成することが度々あること、装備(ブックカバーをかけたリ請求記号を貼付したり)する機会が意外にも多いことでした。自費出版や、小冊子といった資料も地域の重要な資料です。



司書の仕事だけでなく、市の職員としての仕事もしています。物品の見積もり徴収や支払いや、コピー代を収入として市の口座に振り込むために伝票作成をする会計的な仕事です。また、自治体職員のための研修合宿や、市の防災訓練にも参加します。昨年は同期と夏祭りで石巻の「斎太郎節」に合わせて大漁踊りを踊りました。学生時代の恩師から「市町村の図書館で働くなら、そこに住んで地域を知りなさい」と言われました。地域の図書館の司書として、市の職員として地域を知るとはということなのか、日々考えながら暮らし、働いています。

(石巻市図書館 主事 齋藤麻理奈)



－ 児童文学と豊かな日常を －

アンデルセンの作品に触れながら大人になった人はきっと多いはず。『マッチ売りの少女』に『みにくいあひるの子』、それから『人魚姫』に『親指姫』と童話のタイトルを聞けばピンときますよね。このアンデルセンにちなんで、国際的な児童文学賞として設立されたのが「子どもの本のノーベル賞」ともいわれる、国際アンデルセン賞 (Hans Christian Andersen Awards) です。

2018年国際アンデルセン賞の作家賞を受賞したのは、『魔女の宅急便』の角野栄子さんです（日本人の作家賞の受賞は、まどみちおさん、上橋菜穂子さんに続き三人目）。『魔女の宅急便』は1989年に宮崎駿監督によりアニメ映画化され、また清水崇監督により実写化もされましたが、内気で心優しい‘魔女っ娘キキ’とその成長物語にみんなが魅せられたからだと言えます。この作家賞は、1953年に設立された国際児童図書評議会 (International Board on Books for Young People) より、1956年から賞が授与されました（1966年に

画家賞も設立）。IBBYは、第二次世界大戦後の世界中の混乱の中で、「子どもの本を通して国際理解を」というイエラ・レップマン氏らの提唱により設立されたものです。児童文学は「子どもの本」という枠に留まらず、大人の私たちにも多くの示唆と発見を与えてくれます。それは人間の可能性や生きるとは？といった普遍的なテーマを内包しているから

でしょう。そして、様々な経験を経て成長した今だからこそ、ダイレクトに心に響く言葉やアイデア、または微かな違和感に気づくのです。ストレス社会といわれる昨今、童心に帰って繭の中に閉じこもるように児童文学に浸るのは、社会と自分との距離を健全に保つ一つの奇策かもしれませんね。

国際  
アンデルセン  
賞



『新装版  
魔女の宅急便』  
角川文庫  
角野 栄子 著  
※本学図書館所蔵無し



『角野栄子の  
毎日いろいろ』

株式会社  
KADOKAWA  
角野 栄子 著

所 在：ベストセラー  
請求記号：カト//ベストセラー

## 図書館からのお知らせ

### ☆ Eリソースガイダンス・ウィークのお知らせ

2月中旬に、各ベンダーから講師を招いてのEJ等のEリソースガイダンスの開催を予定しています。対象は大学院生及び教員です。詳細は図書館HP等で年内中にお知らせします。

### ☆ 今後の展示情報（2Fフロア）

テーマ：ぷく袋

期 間：2019年1月7日（月）～1月30日（水）

内 容：中身はどんな本が入っているかは、あけてからのお楽しみ。

\* 期間や内容は、変更になる場合があります。展示詳細は、図書館HPで確認できます。

## － 編集後記 －

今回は「わたしの本棚」をボランティア支援課課長鶉橋さんから、そして「図書館エトセトラ」では、本学の卒業生で現在は石巻市図書館にお勤めの齋藤麻理奈さんから寄稿頂きました。いろんな本との出会いや図書館について貴重なお話を聞くことができましたね。大変お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました。

さて、図書館の2Fフロアで展示を定期的に行っています。なにかやっている？本の展示なの？と、知らない方も。先日まで「本屋へ行こう！2018」と題して、街の書店へ行き、参加者が選んだ本の展示を実施していました。今後も2Fフロアでは様々な本の展示を行っていますので、一息つきたいときは、ぜひ見て下さいね。

12月に入り、日が落ちるのが早くなりましたね。日に日に寒さが増し、夜も長い冬。ふと見上げると澄みきった夜空にきれいな星や月を見ることも。夜が長い冬にこそ、ココアを片手に、心が温まる素敵なお本と出会ってみてはいかがでしょうか。 《五十嵐・八巻》

東北福祉大学図書館報「としかんぼう」No. 28 2018年12月  
編集・発行 東北福祉大学図書館 〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1

TEL:022-717-3309 FAX:022-717-3309

E-mail: etsuran@tfu-mail.tfu.ac.jp

http://www.tfu.ac.jp/libr/

